



(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成 23 年 6 月 18 日

都道府県知事

広瀬 勝貞 殿

提出者

住 所 竹田市荻町恵良原769-1

氏 名 株式会社 重松組

代表取締役 重松弘二

電話番号 0974-68-2095

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 重松組
事業場の所在地	竹田市荻町恵良原769-1
計画期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	特定建設業
② 事業の規模	平成21年度 完成工事高 276,228,643円
③ 従業員数	18名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①-1

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙①-2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(22年度)実績】 別紙②		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙②		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず・がれき類(コンクリート・アスファルト) 中間処理できる廃棄物を最終処分の廃棄物に混成しない
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず・がれき類(コンクリート・アスファルト) 再利用・再資源化できる廃棄物にする(土砂等を出さない)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ — 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（22年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	113.68 t	t
	(これまでに実施した取組) 木くずの中間処理を行い、受け入れた廃棄物は破碎し、再資源化（堆肥・チップ・グリーンキーパー）する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	100 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・木くずの中間処理 ・種類ごと（枝・根株・竹）の受入を徹底し、再生品の品質の向上		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 22 年度）実績】なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 22 年度）実績】 別紙③-1		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

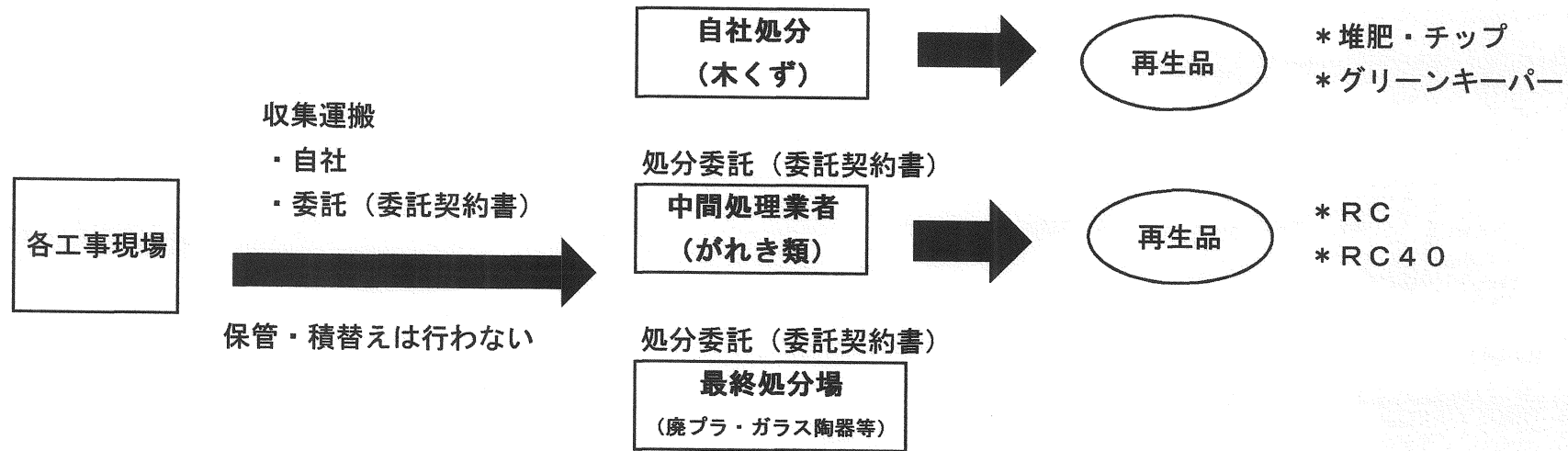
②計画	【目標】別紙③-2	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙①-1

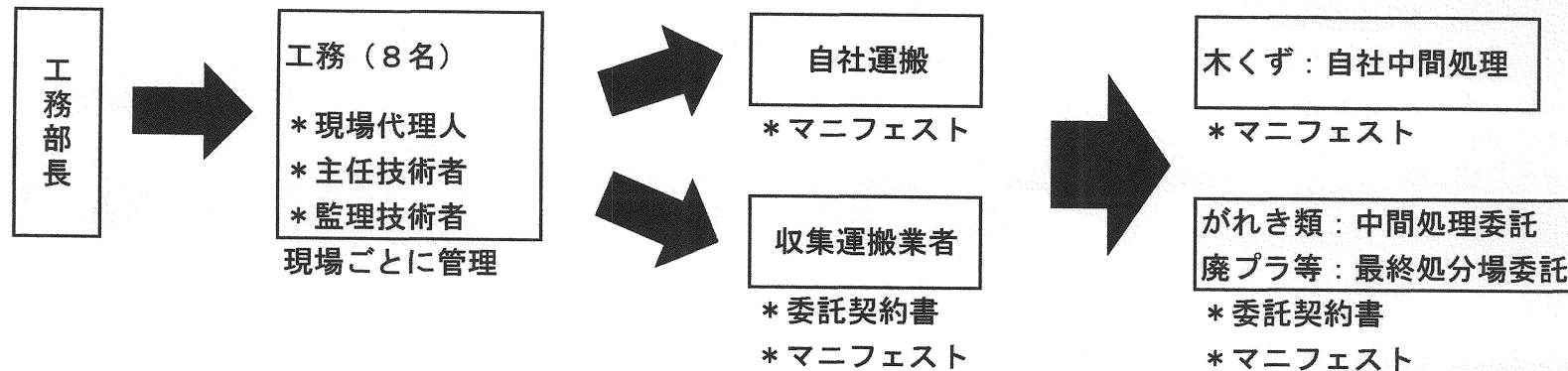
産業廃棄物の一連の処理の工程



* 排出事業所から最終処分までは、マニフェストにより管理する

別紙①-2

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図)



工務が、委託契約書・マニフェストを作成し、処分業者に排出するまでを管理する。

別紙②

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（平成22年度）実績】							
廃棄物の種類	木くず	金属くず	廃プラスチック	ガラス・陶器くず	がれき類		合計
					コンクリート	アスファルト	
排出量（t）	113.68	18.66	0.89	168.77	994.09	333.91	1630
（これまでに実施した取組） 排出現場ごとに、設計数量以上の産業廃棄物が出ないように管理し、2次製品等で、再利用出来るものは産業廃棄物にせず利用する。							

②計画

【目標】							
廃棄物の種類	木くず	金属くず	廃プラスチック	ガラス・陶器くず	がれき類		合計
					コンクリート	アスファルト	
排出量（t）	100	9	5	10	700	160	984
（今後実施する予定の取組） ・ 2次製品の再利用 ・ 再資源化を行う中間処理業者への排出							

別紙③

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度（平成22年度）実績】						
廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	ガラス・陶器くず	がれき類		合計
				コンクリート	アスファルト	
全処理委託量（t）	18.66	0.89	168.77	994.09	333.91	1516.32
優良認定処理業者への処理委託量						
再生利用業者への処理委託量						
認定熱回収業者への処理委託量						
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
最終処分業者（埋立）への処理委託料	18.66	0.89	168.77			188.32
<p>（これまでに実施した取組）</p> <p>中間処理できるものと最終処分（埋立）するのものをしっかり分別し、がれき類や木くず等の中間処理したものは、再生品として現場で使用する。</p>						

②計画

【目標】						
廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック	ガラス・陶器くず	がれき類		合計
				コンクリート	アスファルト	
全処理委託量（t）	9	5	10	700	160	884
優良認定処理業者への処理委託量						0
再生利用業者への処理委託量				700	160	860
認定熱回収業者への処理委託量						0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						0
最終処分業者（埋立）への処理委託料	9	5	10			24
<p>（今後実施する予定の取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生品の利用 ・再資源化を行う中間処理業者への排出 ・最終処分場（埋立）に排出する廃棄物の減量 						